

風紋

vol.78 2023 / Summer

鳥取大学広報誌 FU-MON



特集

アフターコロナ

～苦難を越えて、未来へ～

注目の研究 直面する諸課題を、数字を基に新発想で解決に導く

私たちの研究室 医学部生命科学科 機能形態学講座 神経科学分野

羽ばたく卒業生 社会で活躍する先輩たちに今を聞く！

とりりんの授業潜入レポート 授業の様子をご紹介します！



読者アンケートにご協力いただいた方へ
プレゼントが当たる！

今後のよりよい誌面作りのために、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で10名様にプレゼントを進呈いたします。

アンケートのご回答はこちらから



プレゼント応募締切 | **10月31日(火)**

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

鳥取大学オリジナル
とりりん瓦煎餅

学生広報スタッフが
包装紙を
デザインしました！



合計
10名様

未来を建てる



こおげ建設株式会社

〒680-0463 鳥取県八頭郡八頭町宮谷200番地2
Tel : 0858-72-0029 Fax : 0858-73-0668
URL <https://koge.co.jp>

地球と人にやさしい環境づくり



やまこう建設株式会社

代表取締役社長 岡田 幸一郎

本社 〒680-0903 鳥取市南隈 255 TEL:085728-5511 FAX:085728-8171
米子支店 〒683-0811 米子市藤町3丁目90-4 TEL:085932-0911 FAX:085922-3214
松江営業所 〒690-0872 松江市奥谷町73-1 メゾンかげやま2-102号 TEL/FAX:085267-6000



世界中の大切な人々のため
ずっと愛される製品とサービスで
"食"を支える農業の発展に尽くします

三菱マヒンドラ農機株式会社

〒699-0101 鳥取県松江市長門町雲町損屋667-1
TEL:0852-52-2111 <https://www.mam.co.jp/>



測る、創る、診る
～技術で地域を支えます～

鳥取・倉吉・米子を拠点に
測量・調査・設計から維持管理まで



西谷技術コンサルタント株式会社
Nishitani Engineering Consultant Co.,Ltd.

風紋のバックナンバーは、こちらから

<https://www.tottori-u.ac.jp/about/public/bulletin/fumon/>

鳥取大学広報誌 検索

鳥取大学に関するお問い合わせ

■入学試験 0857-31-5061 ■研究・産官学連携 0857-31-5608
■公開講座・社会貢献 0857-31-6777 ■学生・学生生活 0857-31-5053
■授業料納入 0857-31-5029 ■学生就職支援 0857-31-5456
その他はホームページ <https://www.tottori-u.ac.jp/contact/univ/> をご覧ください

編集発行 / 広報委員会広報誌編集専門委員会

2023年8月発行

筒井一伸(委員長・地域学部) 小野達也(地域学部) 藤岡直人(医学部) 塩崎一郎(工学部) 辻 渉(農学部)
滝波稚子(教育支援・国際交流推進機構) 保坂理和子(研究推進機構) 石田陽介(地域価値創造研究教育機構) 蔵田修一(総務企画課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018

[Eメール] toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <https://www.tottori-u.ac.jp/>



鳥取大学
Tottori University

アフターコロナ

～苦難を越えて、未来へ～



新型コロナウイルス感染症対策「ビフォー・アフター」

	教育関係	研究活動関係	課外活動関係	生活関係	その他
感染拡大期	<ul style="list-style-type: none"> ●オンライン授業のみ ●海外留学の禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ●研究室への立入り禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ●一切のサークル活動禁止 ●課外活動施設の使用禁止 ●大学祭の中止 	<ul style="list-style-type: none"> ●原則、学内への入構不可 ●4人以上での会食禁止 ●会食は2時間以内 	<ul style="list-style-type: none"> ●入学式及び卒業式の中止
感染症対策時	<ul style="list-style-type: none"> ●授業は対面とオンライン併用 ●講義室内での隣席の着席禁止 ●海外留学は感染症危険情報レベルの低い国のみ可能(許可制) 	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅での作業の推奨 ●ディスカッション形式のゼミ等は原則オンラインで実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●県外活動の届出制 ●感染発生地域への移動の自粛 ●更衣室及び部室での飲食禁止 ●新歓活動はオンライン限定 	<ul style="list-style-type: none"> ●マスク着用 ●会食は十分な感染対策を行っている飲食店のみ可能 ●3密の回避 ●不要不急の外出は控える 	<ul style="list-style-type: none"> ●入学式及び卒業式の分散(2部)開催 ●オープンキャンパスの対面開催中止 ●イベントの禁止(体育大会・キャンパス駅伝など)
現在	制限なし				



アフターコロナの様子を取材してきたよ!!



大学活動のほとんどに制限
力合わせ乗り越えた3年間

2023年5月、新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナウイルス)は5類感染症に移行しました。それに伴い、本学においても新型コロナウイルス感染症対策を見直し、感染防止のための行動指針のレベルの一切を「警戒レベル0(通常)」へと変更し、これまで感染症対策として設けられていたさまざまな制限を全て解除しました。

日本国内で新型コロナウイルスが流行し始めた2020年1月頃から、私たちの生活は常にコロナ禍に脅かされてきました。この未曾有の事態により、さまざまな活動制限を行うことを余儀なくされ、対面授業の停止、研究活

動の禁止、課外活動においても県外への移動禁止はもちろん、一時は一切の活動停止にまで至りました。生活面においては、会食禁止や、アルバイト収入が減少したために生活に困窮する学生が多く発生するなど、多大な不利益を被ることとなりました。

本学においては、学長・理事および各学部長等から組織する「感染症タスクフォース」を設置。毎週会議を開催し、コロナ禍に対する全学的な対応策等を検討し続けました。その結果、本学ではマスク着用、消毒、3密の回避徹底といった感染対策は当然のこと、学生への緊急給付型支援金の支給やお米など食料の配布といった経済的支援、学内でのワクチン接種やPCR・抗原検査の実施、メンタルケアな

ど、できる限りのことを行ってきました。加えて、学生一人ひとりが高い意識を持って感染対策を徹底してくれたおかげもあり、本学は大過なくコロナ禍を乗り越えることができました。

ようやく戻ってきた日常
今のキャンパスの様子は?

新型コロナウイルス感染症が流行し始めてから3年が経過した今年、全国的にもコロナの感染状況はようやく落ち着きを見せています。本学においても、4月の入学式を中止あるいはオンライン開催、および密を避けるため2部制による開催と制限をしてきたものを、今年は4年ぶりに新入生全員が一堂に会する形で挙行することができました。ゴールデンウィークが明けてからは学内でのマスク着用も任意となり、本誌を制作している令和5年6月現在では、周りの様子をうかがいつつではあります。マスクを外す学生の割合がだんだんと増えてきているように感じています。

そこで今号では、コロナ禍を乗り越えて「通常」の生活を取り戻した本学の様子をご紹介します。イメージキャラクターである「とりりん」と一緒に、キャンパスをのぞいてみましょう!

国際交流センターで
今の様子を
聞いてきたよ!



本学実施の 留学プログラム再開！ 海外で学びを深めましょう。

かぶらぎ えみ
蕪木 絵実 助教
教育支援・国際交流推進機構
国際交流センター



新型コロナウイルスの流行が始まった

2020年の春以降、本学主催の海外留学プログラム「Global Gateway Program」(以下、G G P [※])は全て禁止となりました。それでも徐々に規制が緩和され、国の助成金などを利用して個人で渡航する留学に関しては、学内の厳しい審査をクリアした上で許可されています。G G Pはオンラインプログラムのみの実施で、多くの学生たちは描いていた渡航留学の夢を断念せざるを得ませんでした。

しかしようやく、今年(2023年)3月からG G Pが完全再開となりました！早速参加した学生からは、「実際に現地へ行って、直接見たり触れたりすることでしか得られない貴重な学びがたくさんあった」など充実ぶりが伺える感想が挙がっています。特に、入学当初からコロナ禍の行動制限に苦しんできた4年生の中には、夢をかな

える最後のチャンスだと挑戦している方がたくさんいます。

また、世界各国から鳥大へやって来る外国人留学生の数も、コロナ禍前の状況に戻ってきました。国際交流活動を行う学生団体「Grenz」では、外国人留学生と一緒に大学構内を巡る「キャンパスツアー」や、日常生活について英語で語り合う「English Cafe」などを実施しており、学内の国際交流が元どおり活発に行われるようになっています。

とはいえ、新型コロナウイルスのリスクがなくなったわけではありません。「もし留学中に感染したら…」という不安があると思いますが、G G Pでは本学教員、もしくは信頼のおける現地スタッフなどが近くで対応できる体制をとっています。留学先での体調不良、病院受診等さまざまな問題に応じて学生に寄り添いながらサポートします。ですからG G Pは、アフターコロナでま

だ海外渡航に不安のある方や、初めて留学する方に最適だと思います。

またG G P参加者に対しては、安全教育も含めた事前研修を受けるよう指導しています。海外渡航の諸手続をはじめ、予想されるあらゆる困り事・トラブルへの対処方法を学ぶ内容となっています。感染症のことも含め、「自分の身は自分で守る」という意識がこれまで以上に必要になってきますから、この機会を利用して、万が一の事態にも自分から積極的に対応できるように準備しておきましょう。

本学G G Pは、語学力アップから、現地学生と「協働」して学び合い実践力を身に付けるものまで、充実した内容のものばかり。海外に数週間滞在し、その国の言語や文化についてじっくりと学びを深めることができます。学生時代の特権です。ぜひトライしてください！



※海外留学プログラム「Global Gateway Program (G G P)」の詳細はWebサイトから▶

講義も実習も 顔を合わせながら 学べる環境に戻りました！



授業は、原則対面形式での実施に戻りました。コロナ禍では、オンラインのみで授業を行っていた時期がありましたが、対面授業を行うとしても、身体的空間を確保するため隣席の着席は禁止とされていました。授業の中には、受講者が多く1室に入りきれないため講義室を分け、オンライン中継で配信するものも。しかし現在は、講義室の全席利用が可能となり、受講者全員が隣り合って座れるようになっています。マスクの着用も任意となりました。

一方、コロナ禍を通じてオンライン授業が普及したことで、対面授業を原則としながらも、必要に応じてオンラインで授業を実施することも可能になりました。特にオンデマンド(録画)方式の授業は、学生が自分の都合のいい時間に受講できる上、動画を停止したり繰り返し視聴したりすることもできる

ので、理解が深まるといった利点も生まれています。

また、コロナ禍では講義形式の授業は原則オンラインとなっていました。実習形式の授業はそういうわけにはいきません。手指の消毒、マスク着用の徹底など、十分な感染対策を行った上で、対面で実施しました。農場実習など屋外での実習は、夏の炎天下の中、マスクを着用した状態で行ったこともあったため、暑さや息苦しさで大変でしたが、マスク着用が任意となったこれからは負担が減ることでしょう。

なお、学生の研究活動も、極力研究室での滞在時間を減らすため一時は自宅作業を推奨し、ディスカッション形式のゼミや研究指導はオンライン実施が原則となっていました。現在は一切の制限がなくなり、研究活動に集中できる環境に戻っています。



学生生活の変化をご紹介 ▶▶▶

食堂・売店

テーブル上に設置していたパーティションを撤去し、隣席の利用禁止や黙食の推奨も解除！仲間と会話しながら楽しく食事ができるようになっています。

とはいえ、まだ新型コロナウイルス感染症を心配する学生もいるので、一部のパーティションは残しています。仕切りがあることで、1人きりや少人数での利用がしやすいというメリットもあるようです。

また、レジや注文カウンターの飛沫防止用ビニールシートを撤去したことで、お互いの声が通りづらいといった不便さが解消され、店員さんとのコミュニケーションがとりやすくなりました。

その他、ドレッシングの提供方法が小袋から従来のボトルに、紙コップが湯呑みに戻りました。環境に配慮して、箸やスプーンも使い捨てのものを中止する予定で、ごみ削減を心がけていきます。



ラーニングcommons



図書館

館内でのマスク着用は任意となり、使用禁止となっていた座席も順次開放され、全席の利用が可能になりました。学生から利用の要望が多かった「グループ学習室」や「多目的ルーム」の利用が再開され、「ラーニングcommons」では会話・飲食禁止の制限が解除。学外者の利用も再開、コロナ禍前の状況に戻っています。

また、多くの皆様にご支援いただいている「鳥取大学みらい基金」からの助成により、今年新たに「防音ブース」と「ワークブース」が設置されました。周囲を気にせずオンライン授業を受講できる、個室で集中して勉強できるなど、利便性が向上しています。

なお、手指消毒液の設置、机など共用設備の定期消毒、全熱交換器による換気など、一部の感染対策は引き続き行っており、皆さんが安心して図書館を利用できるよう心がけています。

防音ブース/ワークブース

新型コロナ感染症対策が利便性UPにもつながってるみたいだね！



課外活動ほか

コロナ禍ではオンラインのみだったサークルの新入生勧誘活動が、対面での実施OKに！今年4月のキャンパスでは、在学生が新入生に勧誘チラシを配る姿が多く見られました。サークル勧誘看板も4年ぶりに設置が許可され、久しぶりに春のにぎわいが戻ってきました。

キャンパス内でのイベント開催もようやく解禁に。ダンスやライブ、書道パフォーマンスなどのイベントに多くの学生が集まり、盛り上がりを見せています。

さらに、「鳥取大学開学記念日体育大会」や「学内レガッタ」が4年ぶりに復活。各競技にたくさんの人が参加し、楽しみながらも白熱した勝負が繰り広げられていました。

10月には鳥取キャンパスの「風紋祭」、11月には米子キャンパスの「錦祭」、12月には「キャンパス駅伝」と、楽しいイベントが目白押しです。



大学祭の情報は17ページに載ってるよ！



サークル勧誘



体育大会



学内ライブ

教員からのメッセージ

「当たり前前に感謝しつつ最高の大学生活を！」

山口 武視 理事・副学長
教育担当・国際交流担当・基金担当



3年前の2020年4月、入学と同時に厳しい行動制限を強いられた新入生。私たち教職員も、画面越しでマスクを付けたままの顔では個性がつかめず、学生対応に苦慮していました。そんな彼らも4年生となり、長く待ち望んでいたマスクのない笑顔に会えたことに、何よりの喜びを感じています。

ゴールデンウィークが明けるとさまざまな制限が解除となり、徐々にキャンパス内に活気が戻ってきています。友だちや先生と談笑したり、向かい合って食事をしたり、一緒にカラオケやダンスができる「日常」を取り戻した今、コロナ禍でできなかったことを1つでも多く本学で体験し、思い出をたくさんつくってほしいと、切に願っています。

学生の声

みんなの今の思いを聞いてみたよ！



私は弓道部に所属していましたが、コロナ禍で大会や活動を制限され、入学当初に思い描いていたとは違う青春の日々を送りました。

しかし一方で、コロナ禍は自分の興味関心のあることに没頭できた時期でもあり、限られた条件下で工夫することの大切さ、自分の芯をぶらさずに努力することの充実感を体験しました。

後輩たちには、私たちの分まで開放的で活発な学生生活を送ってほしいです。

竹平 和生さん
農学部 生命環境農学科
植物菌類生産コース 4年



コロナ禍の影響で、祖父母や医療に関わっている友人などに気軽に会えなかったことがつらかったです。また、所属するコースの海外演習がなくなってしまったことも残念でした。

新型コロナウイルス感染症が収束して国外移動の規制も緩和してきたため、語学留学やワーキングホリデーなどに参加してみたいです。農学部としては、マスクをせずにみんなと農作業をできることがうれしいです。

井上 芽泉さん
大学院持続性社会創生科学研究科
農学専攻 1年生

直面する諸課題を、 数字を基に新発想で解決に導く



たにもと けいし
谷本 圭志 教授
工学部社会システム土木系学科
専門 社会システム工学
趣味 旅行、日本酒

例えば赤字の公共交通。利用者と事業者がWin-Winの関係になるためには、従来にない発想が必要です。そのためには、数理・データ分析の技術やエビデンスに基づいた新たな仕組みの構築が必要で、その後押しをすべく、理論と実践を交えて研究しています。

「住みやすさ」とは

専門は「社会システム工学」。わかりやすく言えば、「都市計画」「地域計画」などです。地域のあり方や考え方などの理論的なことはもちろん、人々にとっての「住みやすさ」を分析することを念頭において研究しています。都市や街は建物や構造物で構成されていますが、「通学する」「買い物をする」「働く」といった社会生活の場として機能します。住んでいる人が住みよい街だと感じてもらうためにはどのような要素が重要なかが分かれば、住む場所にかかわらず「住みやすさ」を実現できるのでは、と考えるながら地域の人々と一緒に活動に取り組んでいます(図1)。



図1 地域で講演会も開催しています(鳥取県琴浦町にて)

地方の公共交通が抱える切実な課題

私がこのような現実の生活と関連した研究を行うようになったのは、鳥取大学に着任してからです。鳥取県の中山間地域に位置するある町のプロジェクトと呼ばれ、参画したのですが、当時の役場担当課長の言葉が忘れ

られません。「私たちをモルモットだと思って、思いっきりやってください」。そこまでの覚悟があるのか、そこまで切実なのかと、課題と向き合う心構えを大きく変えるきっかけになった出来事でした。
現在は、特に公共交通に関して研究を進めています。交通の問題というと、これまでは都市部だけのことだと思われてきました。渋滞の解消のた

ないでしょうか(図2)。ドライバー確保が難しくなっているのは荷物運送の業界も同様。つまり「兼業」「協業」の提案であり、「これまでのやり方をやめませんか？」という発想の転換です。

海外事例や歴史をヒントに 新たな社会の仕組みへ

とはいえ、机上の空論では仕方がありません。エビデンスが必要です。ここで私の研究の出番。このケースにおいては、その地域の乗客数の推移や混んでいる・空いている時間帯などの資料を提供していただいて分析し、ドライバーが5人いるのであればどれくらい荷物をさばれるのか、乗客に支障は出ないか、などのシミュレーションを行います。

導入されています。山岳地帯など鉄道ではカバリーできない地域へ、郵便物や荷物だけでなく乗客も運ぶようになったポストバスの歴史、その変遷を分析すると、今後のヒントが見えてきます。変わりゆく社会に対応できるように、こうした海外事例や歴史にもアンテナを張りつつ、目には見えないものを見えるように数式に表し、新たな社会の仕組みを構想し、実現していきたいと考えています。



図2 貨物と乗客を運送する公共交通(鳥取県大山町)

やシミュレーションに基づいた大胆な発想の転換が必要になってくるのです。
**これまでのやり方やめませんか？
発想の転換で未来を見出す**

赤字の路線バスを例に考えてみましょう。利用者の側から見ると、もちろん廃止されると困ります。一方で事業者の側から見れば、赤字のまま運営していくことはできません。利用者の減少だけでなく、昨今はドライバー確保の難しさや労働環境問題などもあり、事業継続に非常に苦労している事業者が多いのです。では、どうすればいいのでしょうか。これまでの発想では八方ふさがりなので、バス運用の新しい形、進化系を考える必要があります。

統計によると、バス利用者で多いのは学生と高齢女性です。今後は少子化で学生の数は減り、さらには、自動車の運転免許をもつ高齢女性が増えます。ですから、バスを必要とする人はどう考えても今後増えることはなく、乗客数だけを考えるとバスの将来は非常に厳しい。

しかしここで、バスの機能を新しくすることを考えてみましょう。例えば、乗客だけでなく荷物を運ぶことはでき

海外にも目を向けてみましょう。スイスでは、郵便馬車を起源とする「ポストバス」という輸送事業が



図3 自動運転による路線バスにも大きな期待が(鳥取県八頭町)



いちさか さとし
一坂 吏志 助教 生命科学科神経科学分野

社会問題の根本解決を目指し、心をつかさどる前頭前野の秘密を探る

今、さまざまな社会問題がある中で、攻撃性の高い事件を起こす原因の一つに児童虐待があるといわれています。私たちの研究は、まさに幼少期の環境と脳発達の関係性を探っていくもの。人の心理や行動の根源にあるものを少しでも知ることで、社会問題につながるような研究となることを目指しています。

人の行動を決めるのは、脳の前方下部にある前頭前野です。ここは、理性や相手の気持ちを理解する力、適切や不適切かを判断する道徳心、あとは後悔することなど、人間性や社会性に大きく関わる部分になります。

研究では、幼少期にストレスを受けることで攻撃性が上がることが分かっています。生まれてから1匹だけで隔離し、軽い電気ショックを与えながら育

ててストレスを与える独自のモデルラットを使用して研究を進めています。すると、特にオスは大人になると、男性ホルモンの影響もあって攻撃が上がります。メスは社会性が低下します。幼少期体験がもたらす影響が顕著に出るのです。

言語や視覚などからも幼少期に脳の回路が作られることは分かっていますが、実は、作ることよりも児童虐待の体験で作られた回路を消すことのほうが難しいのです。解明しなければいけないことはたくさんありますが、まずはメカニズムを一つずつ詰めていくことが大切です。

前頭前野はまさに心を決めている場所、つまり人間そのもの。それを知ることとはとても面白いですし、社会問題の解決という大きな目標に向かって日々取り組んでいます。

私たちの研究室



医学部生命科学科

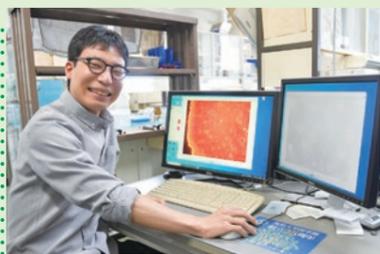
機能形態学講座 神経科学分野

担当教員 畠 義郎 教授 / 一坂 吏志 助教 / 佐藤 武正 助教 / 亀山 克朗 助教

01 学生の研究 Pick up

脳の秘密を学び、社会問題解決の糸口に

さなだ としひろ
真田 峻宏 さん 大学院医学系研究科医学専攻神経科学分野 博士後期課程2年



子どもの時に周りに適応しやすい「臨界期」について研究しています。周りに適応しやすいことが良い場合もあれば悪い場合もありますが、子どもの頃に受けた影響で大人になってからいい環境であってもそれが消えず、精神疾患になったり、暴力事件を起こしたり、虐待の連鎖が起こったりしてしまいます。自分の研究がそれを解決する

治療につながればと思っています。

子どもの脳が周りで起こるさまざまな出来事に適応する時期はいろいろで、攻撃性を高めてしまう時期はいつなのかを調べています。もともと生物全般が好きでしたが、ここで学ぶうちに脳の複雑さ、未解明な点が多いことが面白くなり、人の感情とのつながりに対する関心が深まりました。

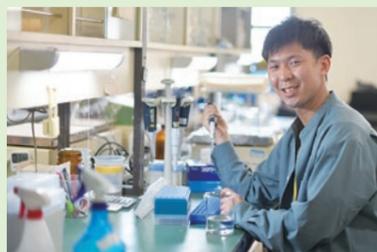
変化しやすい幼少期の脳の仕組みを探る

いもり ひろと
伊森 大登 さん 大学院医学系研究科医学専攻神経科学分野 博士前期課程2年

例えば、英語は子どもの頃にやったほうが身に付きやすいように、子どものある時期は脳が柔らかく、周りの環境に合わせて変化しやすいです。それを「臨界期」といいます。私の担当は臨界期の始まりを調べることで、人間の子どものいうと3~4歳に当たるのですが、生後20日くらいで臨界期に入るマウスを使い、臨界期が始まるメカニズム

を調べています。

目から情報を受け取る視覚野では、臨界期に片目を閉じたまま過ごさせると、その目を開けられるようになっても見えなくなるという現象があります。畠先生の授業を受けてから、脳神経の仕組みの面白さや不思議に興味を持ってここで学ぶことを決めました。日々楽しく研究を進めています。



02 学生の研究 Pick up

体験と脳の成熟のつながりを学び、人の心を知る



人の心を知りたい——。それは人間が持つ基本的な欲求で、それを脳科学のアプローチから迫っていくのがこの研究室の特徴。脳にはまだ解明されていない秘密があるが、テーマは「幼少期の生育環境が、脳の成熟にどのような影響をもたらすか」だ。

一つは、弱視をモデルにした研究。2~10歳くらいの間に、目に障害があるなどして物を見る情報が脳に伝わらないまま大きくなると、目を治療しても脳がその情報をうまく処理できないため、視力が回復しないことがあるように、体験と脳の育ち方はつながる。もう一つが、前頭葉を対象とした体験と人格形成の研究で、幼少期体験によって怒りやすい、落ち込みやすいなど反応の違いがそれぞれ違ってくる。

毎年、人の感情や行動を、脳の仕組みから知ることに興味を持つ学生が集まる。論文抄読会や研究発表会は全員で集まって成果を共有。コロナ禍前は花見や夏の旅行などのイベントを行っていて、教室を離れて楽しむ機会も大切にしている。

畠教授は「研究を重ねていく中で、社会に出て、どこに行ってもそこに必要な問題を見つけ出せる人になってほしいと思っています」と話す。与えられたことをやるだけではなく、自分で考え、それを解決していく。これからの時代を生き抜く力を養う研究室だ。

直近5年以内の卒業生の主な進路

沢井製薬(株)、ユニ・チャーム、テルモ山口(株)、(株)大塚製薬、(株)ヘルスピーティー、バイエル薬品(株)、ペットコミュニケーションズ(株)、Accenture(株)

地域学部



PROFILE

たけだ ともゆき

武田 知之 さん

八頭町役場町民課 勤務

地域学部地域政策学科

令和3年度卒業

鳥取県八頭町役場の町民課で各種証明書の発行や、個人番号カードの申請サポート等、日々多くの町民の方々と接する業務に就いています。

私

が今の道を選んだきっかけは、大学2年時の「地域調査プロジェクト」です。私たちのグループは八頭町東郡家地区のまちづくり委員会

課の窓口立つようになってからも、在学中に出会った方々に声をかけていただくことがあり、とても励みになっています。来庁された皆さんに安心して手続きをしていただけるよう、これからも一人ひとりに丁寧に向き合うことを心がけています。

「地域調査プロジェクト」です。私たちのグループは八頭町東郡家地区のまちづくり委員会の活動に実際に参加し、地域の方々と関わりながら、八頭町の目指す「地域共生社会」の実現に向けた提言と実践を行いました。1年間の調査の中でいつも笑顔で温かく迎えてくださった委員会の皆さんや、その活動を支援する



社会福祉協議会、役場福祉課の方々の姿がとても強く印象に残り、この地域にこれからも関わり続けたいと思うようになりました。

工学部



PROFILE

ほそかわ よしひろ

細川 佳大 さん

株式会社ダイヘン 勤務

大学院持続性社会創生科学研究科

情報エレクトロニクスコース

令和3年度修了

電力会社などに納める大形変圧器の制御盤内の回路設計を行い、安全に電気が届くようにすることが私の仕事です。

最

も思い出に残っていることは、大学院での研究です。研究内容は、通信基地局などに使用するアンテナ部品の電磁波損失を少なくするための構造や設計です。研究を通して学んだ「論理的思考」と、論理的思考を活かして「目の前の問題解決に1歩前進することの楽しさ」は大きな財産になりました。

会社では、変圧器を制御するための回路を設計しています。回路設計のやりがいは、お客様の仕様や他部署との最適化など多角的な要素を総合的に判断することです。部品や回路の一部をとっても明確なロジックがあり、自分が



見落としていた要素や深く考え抜かれた理由に気付いた時は、視野が広がることを実感できて、非常に刺激的です。将来的には難易度の高いトラブルや設計に対して生産的な意見を提案し、解決につながられる技術者になりたいと思います。日々精進しています。

卒業生から「メッセージ」が届きました。

社会で活躍する先輩たち

今を聞く!



医学部



PROFILE

ほりえ たくや

堀江 拓耶 さん

鳥取大学医学部附属病院

検査部 勤務

大学院医学専攻博士課程

平成29年度修了

顕微鏡を用いた血液や尿中の細胞分類、採血、検査機器のメンテナンスなど、幅広く臨床検査業務に携わっています。

「医

療のスペシャリストになりたい」と高校生の時に思い立ち、いろいろ調べるうちに病気の診断や治療に必要な検査を行う「臨床検査技師」という職業があることを知りました。大学では、病院実習や国家試験の勉強などとても忙しかったですが、卒業研究で研究の楽しさを知り、「医療の仕事しながら研究をする人になりたい」という気持ちが芽生えてきました。

した。大学院の先生や職場の先輩にアドバイスを頂きながら少しずつできるようになってきたとき、自分が成長していると実感できました。今後は、臨床検査・研究を通して地域医療へ貢献できる医療技術者になりたいと思います。



農学部



PROFILE

ふじい ひろみ

藤井 宏美 さん

井関農機株式会社 勤務

持続性社会創生科学研究科

農学専攻

令和元年度修了

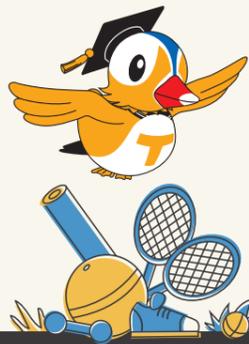
ICT等の先端技術を用いた農業機械の実証試験を通して、開発へのフィードバック、推進拡販を行っています。

宿

学中は、データを活用した農業である「スマート農業」の研究を行っていました。「スマート」というと、最新の技術を用いて精密で完璧な作業を行うもののように思われるかもしれませんが、私の研究のメインテーマは生産者の経験から得られる「感覚」をデータとして見える化するというものでした。生産者が必要としているデータを知らず、農業の現場でさまざまな方々と関わりを持ち、本当に必要なとされる技術を作り上げるためには使い手である生産者の意見を反映することが一番重要であることを学びました。

現在、私は農機メーカーに勤め、農薬を使用せずに雑草発生を抑える「アイガモロボ」という新製品の推進を担当しています。全国各地で実証試験を実施して効果を検証するとともに、生産者から聞き取った使用感や改善点を開発にフィードバックすることで、生産者目線のベストな技術の提供を目指しています。





Regional Sciences

Engineering

Agriculture

Medicine

『とりりん』の 授業潜入レポート

とりりん記者が取材してきた
授業の様子をご紹介します!



地域学部 2年

授業名

地域調査プロジェクト (国際地域文化コース、考古班)

地域調査プロジェクトは、地域学部2年次生の実習(必修)で、地域に関わるさまざまなテーマに基づく探求を、実践的に行うことが特色です。

国際地域文化コースでは、2023年度に4つのテーマが設定されていますが、「考古班」は2019年度以来、「大熊段古墳」という前方後円墳の発掘調査に取り組んでいます。6世紀後半の鳥取平野における最有力者の墓の考古学的解明を目指します。



ふむふむ、今日は「水準測量」の練習をするんだね。難しそう～



この長いものさしは「標尺」っていうんだって。3mもあるんだ～

のぞいているのは「レベル」っていう水準測量器なんだとか。とりりんにも見せて～

受講した学生の声



じょうしに ゆうひ
上西 雄飛さん
古墳発掘調査にあたり、地域における歴史の詳細や3Dモデル作成の知識を積んで挑む調査にやりがいを感じました。



担当教員 地域学部地域学科国際地域文化コース 高田 健一 教授

工学部機械物理系学科 3年

授業名

実践プロジェクトI

地域の企業や団体が抱えている課題を工学的な手法で解決することに取り組む、PBL型(課題解決型)授業です。1年かけて、課題のヒアリング、課題分析、解決方法の提示、そして、実際に製品の製作まで取り組みます。学生同士が協力しながら製品開発していく中で、これまでに学んだ専門知識の活用力、社会で求められる協調性、能動性、プロジェクト遂行能力を養います。



それぞれが考えてきたアイデアを話し合っているよ。みんな真剣!



話し合ったアイデアを段ボールなど身の回りにあるもので簡易に作っているよ。これを「ダーティプロトタイピング」っていうんだって。



各班話し合ったアイデアを発表中。これからの授業で今日考えたアイデアに基づいて、実際にモノを形にしていくんだって。みんな頑張ってる!!



受講した学生の声



にした しょうじ
西田 祥士さん
企業の方とコミュニケーションをとりながら実際に製品開発に取り組みます。ヒアリング等を通して顧客が本当の意味で求めているものを形にすることが醍醐味です。



担当教員 工学部機械物理系学科 影山 智明 助教

教育研究林「蒜山(ひるぜん)の森」で
安全祈願祭を挙

2023.05.29

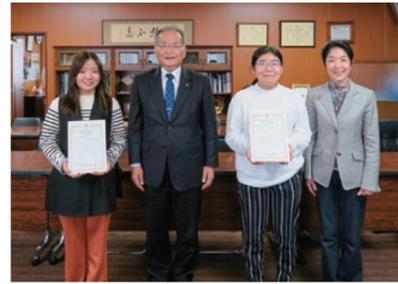


5月29日、岡山県真庭市にある農学部附属フィールドサイエンスセンター教育研究林「蒜山(ひるぜん)の森」で、中島学長や大学役員をはじめ、蒜山の森で学ぶ農学部の学生や関係教職員29名が参加し、安全祈願祭を挙りました。

安全祈願祭は、学生実習や教職員の調査研究、森林管理業務の安全を祈願し無事を感謝する行事として毎年行われているものであり、野波和好センター長からは、「本教育研究林は、生命環境農学科里地里山環境管理学コースの学生をはじめ、多くの学生が実習・研究に使用している。今後も皆様のご支援を賜りながら、関係教職員が協力して安全な環境づくりに取り組んでいきたい」と挨拶がありました。

鳥取大学地域創生推進プログラム
修了者へ認定証を授与

2023.4.26



地域創生推進プログラムを修了した2名の学生(20単位コース:野田さゆりさん、10単位コース:奥田琳花さん)に認定証を授与しました。

地域創生推進プログラムは、地域社会の課題に立ち向かっていくための一般的な知識、デザインする力、実践力を養うことを目的に設定されたプログラムです。

中島学長からは、「おめでとうございます。本プログラムを通して学んだ経験を活かされながら、将来は広く社会においても活躍されていかれることを期待しております。」と激励の言葉が贈られました。

鳥取大学技術部が
令和5年度 文部科学大臣表彰
科学技術賞を受賞

2023.4.12



長年、技術部が行ってきた地域貢献活動「出前おもしろ実験室」の活動が高く評価され、令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(理解増進部門)を受賞しました。この賞は、青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心および理解の増進等に寄与し、または地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った者を対象に授与されるものです。「出前おもしろ実験室」では、多くの子どもたちに科学への興味や関心を深めてもらうために、技術職員と本学学生が協力して科学の面白さを体感できる実験室を開催しています。



WHAT'S NEW?



大学の動き

在学生の活躍や大学の取り組みなど、
鳥取大学の最新情報をご紹介します。

鳥取イノベーション実装フィールドの
オープニングセレモニーを挙

2023.7.7



令和5年7月7日(金)、鳥取県が鳥取大学乾燥地研究センター敷地内に整備を進めてきた「鳥取イノベーション実装フィールド」(以下、実装フィールド)のオープニングセレモニーが挙行されました。

セレモニーでは、鳥取大学の中島学長と平井伸治鳥取県知事が実装フィールドを拠点とした研究開発、人材育成等を推進するための「鳥取イノベーション実装事業に関する基本協定書」に署名した後、宇宙産業の関係者・建設産業の関係者も交え、テープカットを行い実装フィールドの完成を祝いました。また、この日はセレモニーに加え、各フィールドで最新技術による実証実験のデモンストレーションも行われ、今後の成果に向け関係者の期待が高まるものとなりました。

鳥取大学グローバル人材育成教育
プログラム基礎力養成コース
修了者へ認定証を授与

2023.6.21



鳥取大学グローバル人材育成教育プログラム(以下、「TOUGHプログラム」という)の基礎力養成コースを修了した2名の学生に認定証を授与しました。TOUGHプログラムは、平成24年度に文部科学省に採択された「経済社会の発展をけん引するグローバル人材育成支援」により平成28年度に本学が構築したプログラムです。

授与式では、山口理事から「おめでとうございます。このあとも『グローバル強化コース』に挑戦してください。一人でも修了した学生が出ると他の学生の励みにもなり、TOUGHプログラムも進化します。期待しています」と激励の言葉とともに、認定証と記念品が贈られました。

学生生活支援物資の受贈式を実施

2023.4.19



「県内大学生の生活支援に貢献する取組み」として、県内JA(JA鳥取いなば様・JA鳥取中央様・JA鳥取西部様)およびJA共済連鳥取様から本学学生へ、鳥取県産米「星空舞」(2kg 800袋)が寄贈されることになりました。

受贈式では、中島学長から影井克博様(JA鳥取いなば代表理事組合長ならびにJA共済連鳥取運営委員会会長)へ感謝状が贈られ、中島学長からは、「学生たちは今、まさにコロナ禍を抜け出しつつも経済的な負担が重くのしかかっている中で、学生に対する支援として大変ありがたい。大学としても地域の温かい気持ちを受け止め、社会貢献に一層励みたい」と、お礼の言葉が述べられました。

令和5年度入学式において、
鳥取大学優秀学生育成奨学金奨学生の
表彰式を挙

2023.4.19



令和5年4月6日に行われた令和5年度入学式において、鳥取大学優秀学生育成奨学金奨学生の表彰が行われ、被表彰者に対し学長から表彰状と目録が授与されました。

この表彰は、本学の在学生のうち、学業成績等が特に優秀で他の学生の模範となる学生に対して、表彰状と併せて、地域社会の篤志家の方から寄附された奨学金を授与し学資を助成することにより、今後の学生生活への期待と奨励を目的としています。

被表彰者 一覧	地域学部国際地域文化コース	加藤 由布さん
	医学部保健学科	池尻 茉衣子さん
	工学部電気情報系学科	手塚 雅貴さん
	農学部生命環境農学科	土師 璃乃さん

HILL PEAKがもうすぐ1周年



今号は、10月にオープン1周年をむかえる鳥取キャンパスのショップ“HILL PEAK”を紹介します。HILL PEAKには3つのエリアがあり、買い物ができるだけでなく、コミュニティエリアを活用すれば交流も行うことができます。

正面入り口から入ると見えるイベント台は、時期によって陳列商品を変えています。新しい発見や気分を盛り上げてくれるオススメ商品を多数並べているので是非ご覧ください！



地元のブランド、店舗オリジナルメニューもおいています！

大山乳業の白バラ牛乳、はまなすのクレープ、セルリアのオリジナルパンや食堂で作ったサラダなどあり、健康面も考えながら買い物ができますよ。

午前だけでなく、午後も手作り弁当をご用意！

実はHILL PEAKの弁当は午後分も提供しているんですよ。夕食として弁当を買いたい、お昼ご飯をちょっと遅く食べようかな…などなど、学生・教職員の皆さんが食事できるように夕方までご利用できるように準備しています。提供しているお弁当は種類も豊富!!

～ HILL PEAK 1周年記念のイベントを開催予定～

日頃利用して下さる皆さまに感謝の気持ちを届けられるようなイベントを計画中。お楽しみに！

営業時間
(平日・土曜日)

HILL PEAK
ヒルピーク

平日/8:20~18:20
土曜日/10:30~14:00



学内の食堂からの耳寄り情報

「冷やし麺」はじまりました



冷やし担々麺 ごまだれ冷やし中華

冷やしうどんなども提供しています！これを食べて暑い夏を乗り越えましょう。医学部食堂・マーレで提供していますので夏休みなど長期休暇中もご利用ください。

ワンポイントアドバイス

野菜小鉢も一緒に食べよう！



法蓮草やカボチャ煮など手軽に野菜が取れる小鉢もあります。日々の食事にプラス1小鉢して健康面を少し意識してみませんか？

編集後記

EDITOR'S NOTE

最後までご覧いただきありがとうございます。とうございませう。

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置付けが「5類感染症」に変更され、3年あまり続いた新型コロナウイルス感染症対策は大きな節目を迎えました。

今号では、そんな5類感染症へ移行後の学校の変化を追った「アフターコロナ」をテーマに、節目を迎えた学校生活の様子を特集しました。学内を歩いてみると、マスクを外し、笑顔で話しながら歩いていく学生を見て、少しずつ日常が感染症の流行以前に戻ってきているのを実感します。

また、これまで制限されてきたさまざまな行事も再開し、風紋祭・錦祭も4年ぶりに制限のない形で開催する予定です。ぜひ皆様足を運びいただければ幸いです。

引き続き、より良い広報誌「風紋」を皆様へお届けできるよう努めてまいりますので、今後ともご愛読のほどよろしくお願いいたします。

米子キャンパス

2023年度 大学祭情報

鳥取キャンパス

第55回 錦祭

今年のテーマ

鳥躍(ちょうやく)

11/10(金)-12(日)



実行委員長メッセージ

いだ さくら
伊田 彩桜さん
医学部医学科 3年



今年のテーマは、「鳥躍(ちょうやく)」です。“跳躍”と鳥取大学の“鳥”をかけて、完全復活した錦祭を通して鳥取から大きく羽ばたこうという想いを込めました。4年ぶりに全面解禁で開催できる今年の錦祭では、コロナ禍以前に行っていたような、さまざまなイベントを企画しています。地域の方々だけでなく、コロナ禍で来場を控えていた方や他県の方にもたくさんおいでいただき、楽しんでいただけたらと思います。ここ数年開催しておらず、右も左も分からなかった私たちですが、実行委員会を中心に一生懸命取り組んで、皆様の思い出に残る錦祭を準備していきます。ぜひお越しください！

第59回 風紋祭

今年のテーマ

青春playback

10/7(土)-9(月)



実行委員長メッセージ

すぎはら ひとき
杉原 仁輝さん
地域学部地域学科
人間形成コース 2年



皆さん初めまして。風紋祭実行委員会の委員長の杉原仁輝と申します。今年にはコロナ禍による制限を受けない風紋祭を4年ぶりに開催します。既に、昨年度より多くの学校内外のサークル、団体からご参加の連絡を頂いています。出店・出場・出展される方、来場される方など、皆さんをつなげるかけ橋となるよう、風紋祭では青春のエネルギーを爆発させます。完全復活の今年の風紋祭では、地域の方にも存分に楽しんでいただいで、鳥取に新たなエネルギーを吹き込みたいと思います！

